岩手教区報

第335号
立教183年11月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597

「大切な水」から思うこと

県南支部長　千葉道雄

　ラジオから流れるCM、「世界では、汚れた水で命を落とす子どもがいます。それでも生きるために、その水を飲むしかないのです。」最初にこれを耳にした時、ふと脳裏に、以前見た映像―アフリカの赤茶けた大地で、登校前に数キロ先から水を汲み運ぶ少女の顔―が浮んだ。こんな小さな子が可愛想にと思ったが、意外にもその子の目はキラキラと輝いていた。決して綺麗とはいえない水だが、これを運び終えれば楽しい学校に行けるし、友達にも会えるとのことだった。胸が締めつけられる思いだった。

　以前私の教会でも度々水で苦労した事があり、それ故、水の有難さ、大切さは多少なりとも分かったつもりでいた。今でこそ、蛇口を捻れば当たり前に出てくる水、本当に有難い限りである。

　この地球の7割、人間の体の約7割も水分と聞く。人が一日に必要とする水分は2.5ℓとも。今更ながら、いかに水が大切であるか、全ては親神様のご守護にほかならない。この有難い「水」も清濁抱き合せ、清水から五目水まで色々あり、こと近年の水害は甚大で始末が悪い。

　水害だけでなく、止まることを知らない欲望に、凄惨な犯罪や事件、経済優先に環境破壊、それに伴い地球温暖化に拍車が掛かる。利便性の追求に物が溢れ、生活が豊かになった反面、人間本来の良心とか優しさ思いやりは何処へやら。これでは、「陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」と、人間をおつくり下された親神様がお喜びになる筈はない。

　ところで、スイスに一泊890万円する世界一高いホテルがあるそうだ。どんな人が利用するのかわからないが、意外にも好評らしい。民間企業で働く人の平均年収の二倍である。子細はさておき、このホテルに泊る人、数キロ先から水を汲む子ども、正に世の中、千差万別である。生活スタイルに格差はあるにせよ、37兆ともいわれる人の細胞には変わりはない。

　それぞれの土地所に生を受け、今を生きる。幸い私たちには、有難い教えと教祖のひながたがある。折しも、先月より団体での帰参も可能となった。「当たり前」が「有難い」に心の向きが変わるように、また、それぞれの災いの治まりを願い、親神様・教祖がお待ち下さる「ぢば」に、共に勇んで帰らせて頂きたいと思う。

　よくにきりないどろみづや
こゝろすみきれごくらくや　十下り目　四ッ

信仰随想　法楽

前岩手教区長　中田俊次

「危機と進化」

　未だ先の見えぬ感染症の蔓延により、人心は不安になり、困難な生活を余儀なくされている人達は計り知れない。コロナ禍で、ともすれば感染を恐れるあまり人と人とのつながりが希薄になりはしないか案ぜられる。だからこそ、自分に縁のある一人ひとりに心を込めて向き合い、お互いの絆を大切にし、相手を尊敬し力を合わせて、この試練を乗り切ることが大切かと思われる。

　元来、日本人はつなぎの心、つまり縁を重んじて来た。一つは地域の人、地縁、職場の人、知人、友人等の横のつながり。一つは血縁という縦のつながり。この二つが交差する所に今の自分が居て、様々な関係性（縁）の中に生かされていることを有難く思う。

　さて、今日の世界的危機を受けて、ある識者は改めて利他主義への転換を説き、深刻な危機に直面している今こそ、「他人の為に生きる」という人間の本質に立ち返らねばならない。人類は一つであるとの自覚と共に、その協力は競争よりも価値があり、利他主義という理想への転換こそ人類のサバイバル（生き残り）の鍵であると説いている。そして、この危機は新しい世界がつくられる変革のチャンスでもある。「ピンチは進化する最大のチャンス」であり、「他人を思いやることが自分に幸せをもたらす」事であり、国家やイデオロギーを超えて世界の国が協力し合う事ができれば、如何なる危機も乗り越えられると言う。世間でも「情けは人のためならず」と言い、又「人を救けてわが身救かる」のご神言の如く、この世の生きとし生けるものは、命のつながりという守護のもとに生かされている事を再認識する旬でもある。

　と考えれば、この度の世界の事情は疫病の流行に止まらない。この大節が過ぎ去った後の世界は確実に変るであろう。生活や暮らしの変化だけではない、人間と人間の関係が変わると言われている。良くも悪くもである。とすれば、我々ようぼくは先案じをせず、神意に添い、明日への新しい展望のひらける陽気ぐらしの実現を目指したいものである。

行事中止のお知らせ

11月に予定されていました「四会（婦人会・青年会・学生会・少年会）合同総会」は、中止となりました。

行事予定【11月分】

- 1日　少年会例会（12時）
- 〃　主事会（15時）
- 2日　役員会議（10時）
- 8日　献血ひのきしん（10時 イオンモール盛岡南）
- 13日　婦人会例会（10時半）
- 〃　災救隊支部幹部研修会（12時）
- 〃　学生担当委員会例会（19時）
- 14日　岩手教区小史編集委員会（10時）
- 〃　祭事部会議（11時）
- 〃　青年会例会（18時）
- 15日　女子青年例会（10時）
- 29日　道の教職員の集い第3回役員会（10時）

「教会長研修会」開催さる

10月１日（金）、本部員・木村成人先生（本部教務部長）を講師にお迎えして、教務支庁を会場に「教会長研修会」を開催、35人が参加した。

10時より開講式を行い、加藤昌弘教区長が挨拶。「先ごろ示された『これからの道の歩み』を受けての具体的なお話も頂くと思うので、私たちのつとめ方や心の持ち方を定めさせて頂きたい」と述べた。続いて、司会より講師の紹介、日程説明があり、講話となった。

木村先生は、まず教区制度の成り立ちについて述べられた。続いて教会について は、「たすけ一条の願いのもとに設立されたのが教会」とされ、そして、「おつとめとおたすけが大切であり、これがつとめられなければ教会の意味がない」と、本来の教会の存在意義を示された。また、「これからは教会全てが同じ事をするのではなく、地域やニーズに合った活動を工夫することが必要となっていく」とお話し下された。

閉講式では、鈴木眞彦布教部長が「コロナ禍中ではあるが、しっかりと努めさせて頂こう」と述べ、礼拝の後散会となった。

従来、「教会長夫妻研修会」として開催していたが、新型コロナウイルス感染予防の上から、参加対象を教会長のみとした。そして、受付時には検温と手の消毒を行うなど、感染防止を徹底しての開催となった。

「社会保険手続き勉強会」開催さる

去る10月30日（金）、講師に鈴木俊治先生（社会保険労務士・吉池労務管理事務所所長・天理教君上尾分教会長）をお迎えし、教務支庁に於いて「社会保険手続き勉強会」が開催された。

午前中の講義では、社会保険の基礎から始まり、教会としての社会保険加入の大きなメリットや、意外と簡単な手続きの方法など、様々なケースを例にあげて具体的に説明された。講師は、教会長であることから、教会事情に即した加入手続きのアドバイスなどもあり、受講者には大変好評だった。

昼食を挟み、午後からは個別相談を受けて下さり、６組の相談者が並んだ。受講者は17名。

災救隊

「庭木剪定ひのきしん」実施さる

災救隊（佐藤一三隊長）は、去る10月14日（水）から15日（木）にかけて、教務支庁中庭の剪定ひのきしんを行い、盛岡支部婦人会８人を含む19人が参加した。

電動工具などを使用して作業は手際よく順調に進められ、中庭の木々はきれいに整えられた。

なお、今回は、本部災救隊が策定した新型コロナウイルス感染症対策の出動ガイドラインに沿って、検温と手指消毒を行って、つとめさせていただいた。

「支部幹部研修会」【11月13日】

災救隊は、左記要項にて教務支庁内外の清掃を中心に、支部幹部研修会を実施します。各支部より、班長はじめ数名の参加を募っています。

記

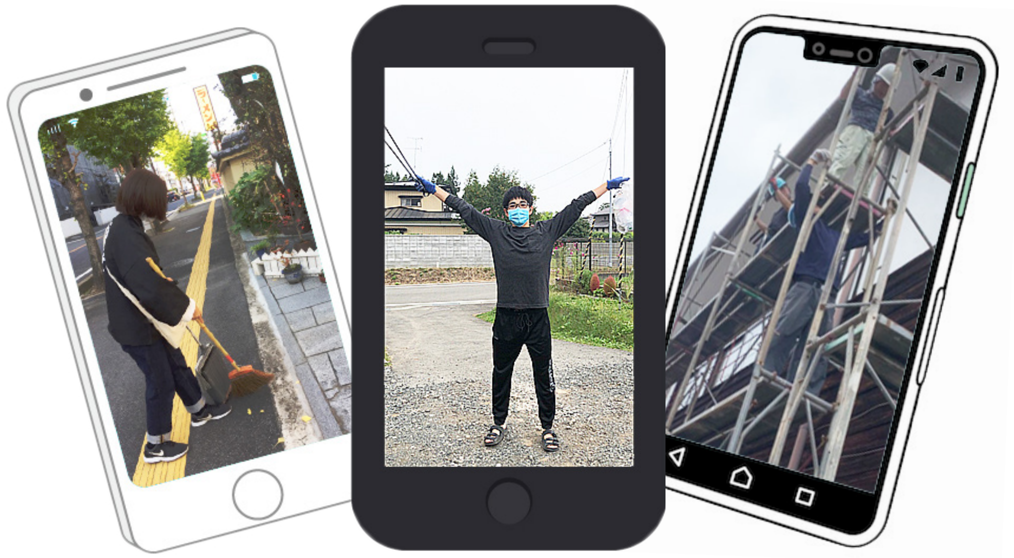
日　時　11月13日（金）　12時集合
御　供　千円
内　容　教務支庁舎ガラス拭き清掃、備品整理

※隊服、マスク着用にて参加して下さい。

学生担当委員会

「道の学生ひのきしんＤＡＹ」各地で実施

―ＳＮＳで報告―

今年の「道の学生ひのきしんＤＡＹ」は、10月４日（日）感染症予防対策のため、学生各自が、それぞれの場所で実行することとなった。

ひのきしん実働の様子をＳＮＳで投稿してもらったので、その一部を紹介する。